

姉崎古墳群

姉崎古墳群（上海上首長墓群）

| | | | | | |
|--------------------|---------|------|----|-------|-------|
| いまだみつかやま 今富塚山古墳 | 全長 120m | 前方後円 | 築造 | 4 世紀後 | |
| てんじんやま 天神山 | 130m | 〃 | 〃 | 4 世紀後 | 県指定史跡 |
| ふたごづか 二子塚 | 106m | 〃 | 〃 | 5 世紀中 | 県指定史跡 |
| しやかやま 釈迦山 | 93m | 〃 | 〃 | 4 世紀後 | |
| さんのうやま 山王山 | 70m | 〃 | 〃 | 6 世紀前 | 発掘消滅 |
| はら 原一号 | 70m | 〃 | 〃 | 6 世紀前 | 発掘消滅 |
| つるくぼ 鶴窪 | 60m | 〃 | 〃 | 6 世紀後 | 市指定史跡 |
| せきがしら 堰頭 | 45m | 〃 | 〃 | 6 世紀後 | |
| ろくそんのうぼら 六孫王原 | 45m | 〃 | 〃 | 7 世紀後 | |

その他の中小古墳

| | | |
|-----------------|-------|-------------|
| ふじみづか 富士見塚古墳 | 円墳 | 発掘消滅 |
| おんじや 御社 | 〃 三基 | 現存 |
| みよきやうじ 妙経寺 | 〃 | 発掘 消滅 |
| はら 原二号 | 前方後円墳 | 発掘消滅 |
| そとぐるわ 外郭 | 〃 | 古墳上に椎津城築城 |
| とくべだい 徳辺台 | 方墳 | 消滅（姉崎唯一の方墳） |

他に中小の古墳（主に円墳）多数が確認されています。

その殆どが開発などにより消滅した。

墓の大きさを首長の国の力を他の国に

見せつける支配力の象徴と思われ

る。

（上海上首長墓群）

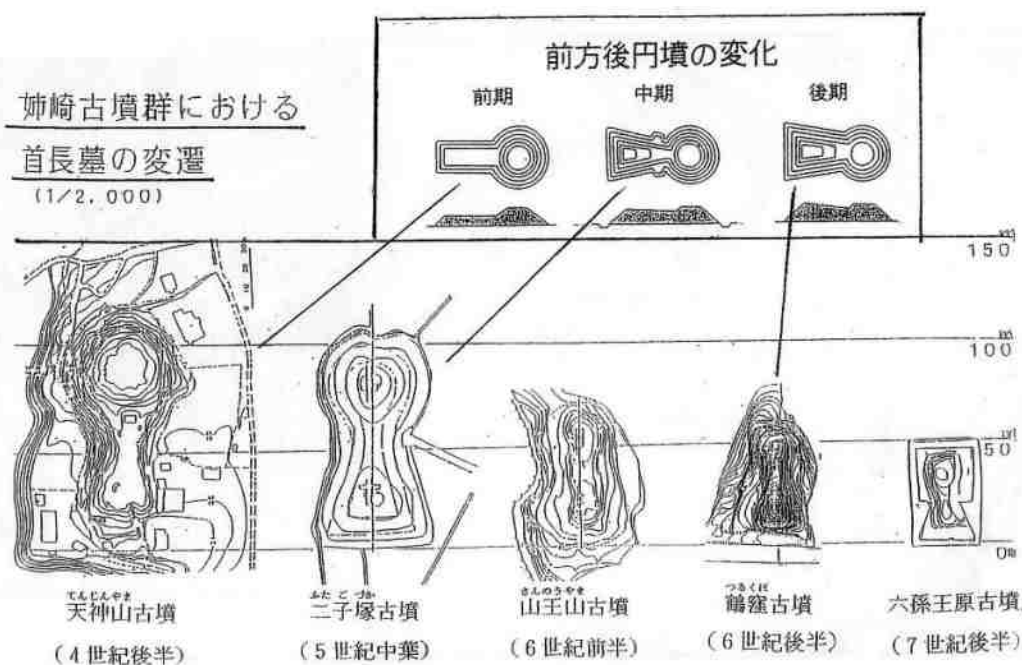


姉崎古墳群のあらまし

姉崎古墳群は、市原市今富から姉崎神社周辺に分布している古墳群です。市原市内には、大小合わせて1000基を超える古墳があり、4世紀から7世紀の間に造られています。その中で大型の古墳は非常にすくなく、長さが50mを越える前方後円墳・前方姉崎古墳群は、20基ぐらいで、100mを超える古墳は3基です。

そしてこれらの大型古墳の半分ぐらいが姉崎古墳群に集中し、特に100mを超える前方後円墳は、すべて含まれています。このような大型古墳が、姉崎地区に集中して作られたということは、当時この地域に大きな権力を持つ首長が出現したことを意味しています。古墳の規模は、被葬者とその後継者の力によって左右され、大型の古墳を造ることができるということは、それだけ大きな力を持っていたことになります。現在では、この大型古墳に葬られている首長たちは、後の「上海上国造」とその祖先たちと考えられています。

古墳群の構成は、9基の大型古墳（前方後円墳8・前方後方墳1—六孫王原古墳）と中小の古墳からなっています。古い方から今富塚山古墳・天神山古墳（4世紀後半）釈迦山古墳（4世紀後半）、二子塚古墳（5世紀中葉）、山王山古墳・原1号墳（6世紀前半）、鶴窪古墳（6世紀後半）、堰頭古墳、六孫王原古墳（7世紀後半）があり、六孫王原古墳を最後に姉崎地区での首長墓造りは終わったようです。



天神山古墳 (千葉県指定史跡)

前方後円墳 4世紀後葉 未発掘(測量のみ) 所有、菅原神社、姉崎 2489

○全長 130m 前方部 巾 50m 高さ 7m

後円部 径 67m 高さ 12m (前後高低差 5m)

○前方部が後円部に比べて 巾、高さ共に小さい古い時期の古墳の形態

○県内で2位、市原市市内では最大の大きさ姉崎古墳群では最初の頃に築造されたと思われる。県内1位は富津内裏塚古墳(144m)

○当時養老川下流域の勢力が重要な位置を示す、周長墓とみられる。

墳丘くびれ部に菅原神社があり地元では天神山の名で親しまれていた所から天神山古墳の名称がついた(別名 大塚古墳)

○出土品、埋葬施設は不明

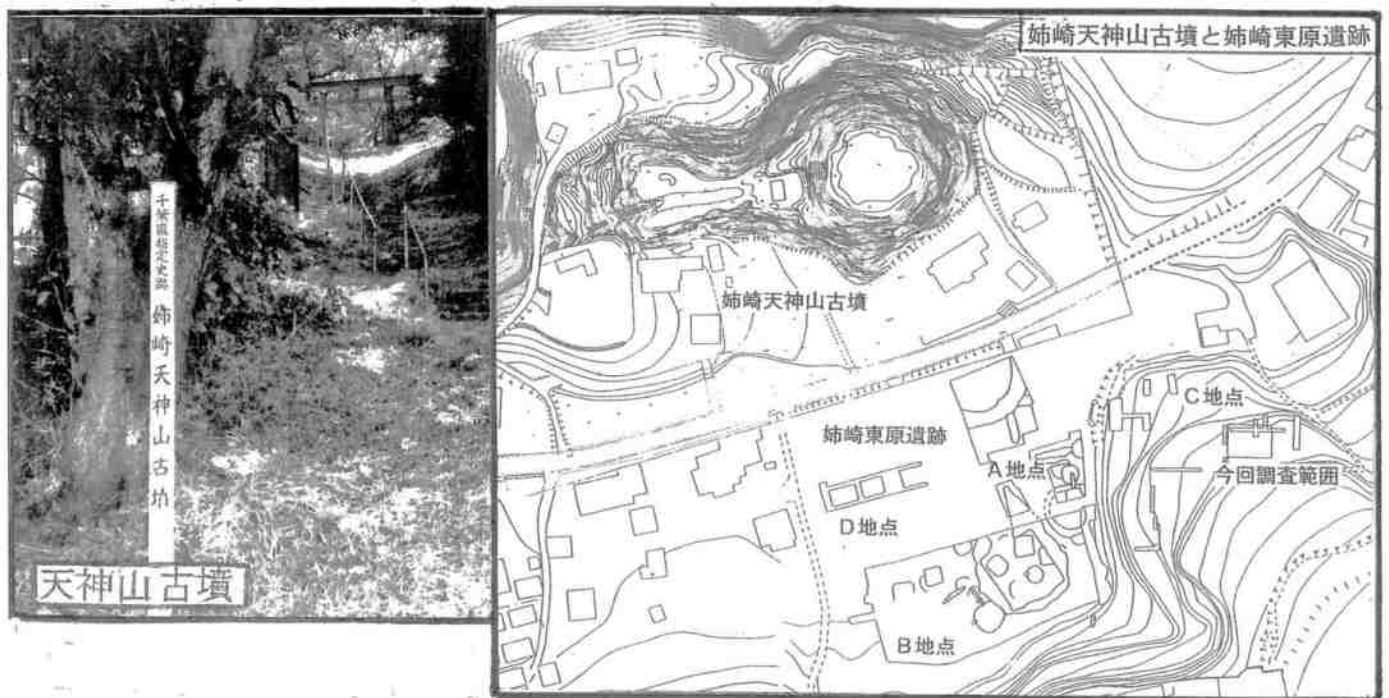
○墳丘上は現在桜の名所として有名である。

○墳丘は台地、高台にあり絶好の眺望の位置にあった。

○段高は前方2段、後円3段の築城で一部は現存する。

注：古墳南側隣接に姉崎台遺跡があり、その中に姉崎台貝塚、古墳(円墳径12m、円墳径20m、前方後円墳33m)

東原遺跡(弥生中期—古墳時代の多くの住居跡を発掘した)等が確認された。



釈迦山古墳 (平成7年確認調査)

前方後円墳 4世紀後葉 全長 93m

前方部 巾 32m 高さ 8m

後円部 径 57m 高さ 12m

古墳の名称は戦前墳上に「お釈迦様」を祀ったお堂があった事に由来する。後円部と前方部の比高差4mという、古墳の形態から古い時期の築造と推定される。

出土遺物、土師器、管玉、鏃、刀子

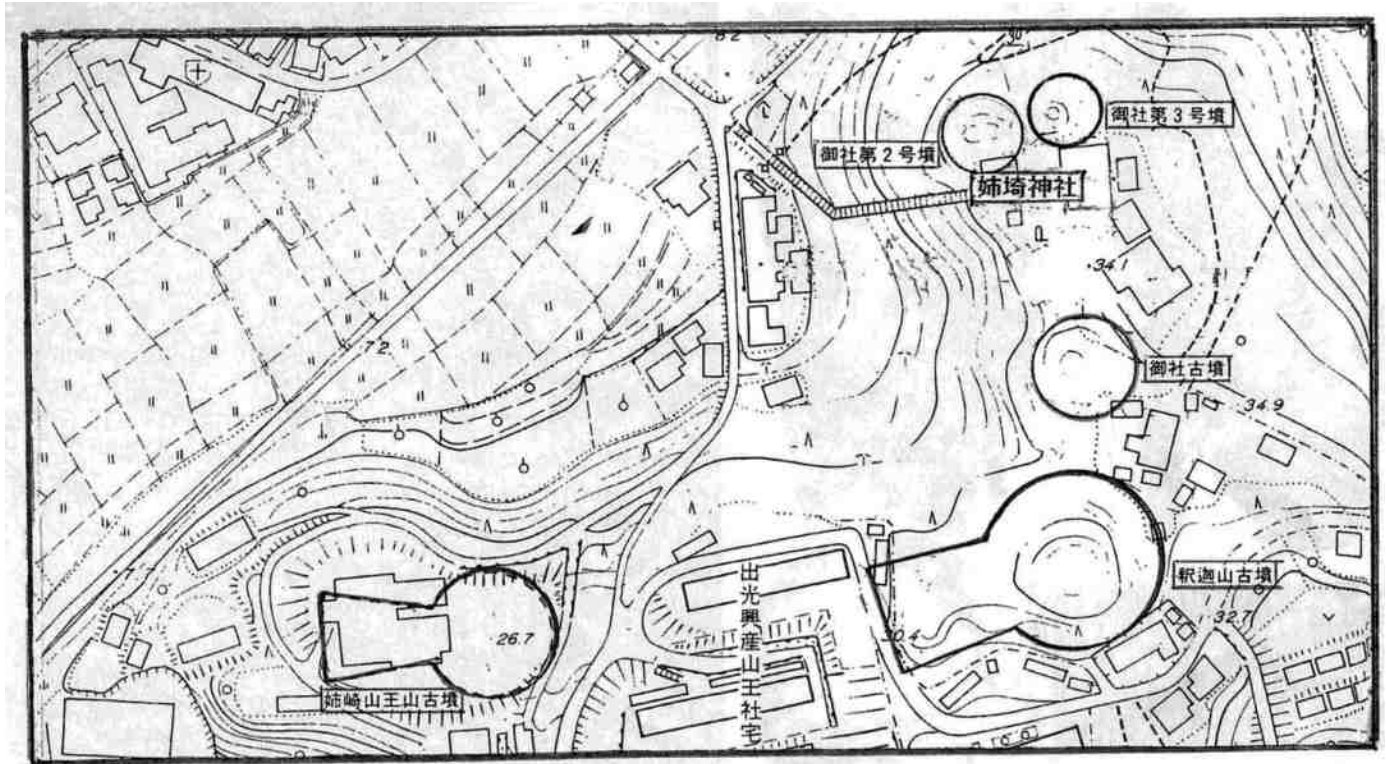
埋葬施設は木棺を粘土でくるんだものの一部が確認された。(槨内部は未調査)

後円部墳上部から近世の瓦、寛永通宝(賽銭か)が纏まって出土した。(釈迦堂に関連だろうか)

前方部北側が人工的に大きく削られた整地跡が認められる。(中世の頃の遺物出土)

くびれ部に巾1mの道路が横断している

墳の南東側に姉崎神社の宮司である奥津城(墓所)となっている。



鶴窪古墳 市原市指定史跡 6世紀後葉

前方後円墳一部発掘（昭和56年）全長60m

前方部巾25m 高さ4.2m 後円部径13m 高さ4m

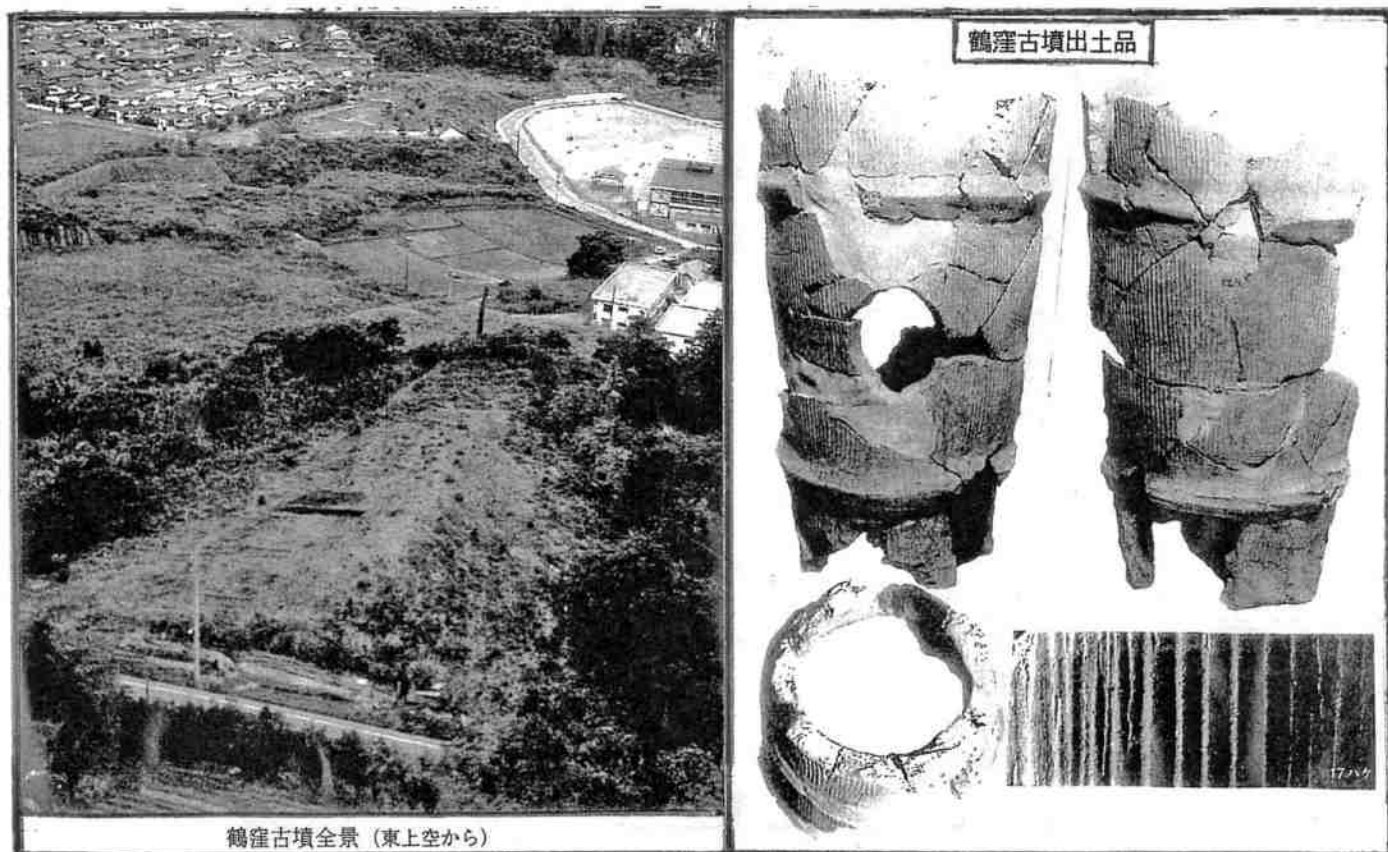
前方部東側は道路で削られ後円部西側斜面盛土の崩壊がみられる。

前方部の巾にくらべて後円部の径がきわめて小さい関東では類例のない形状、墳丘は盾形をなす下段墳丘長さ60mと前方後円の上段墳丘長さ45mとの2段築城という稀有な構成をもっている。下段墳丘は地山の削り出しによって形成（上部テラス面が広くとられている）され上段墳丘は盛土によって構築されていると推測される。

他の古墳は前方部が西側か北側に向いている中、鶴窪古墳のみ唯一前方部が東側に向き構築されている。二重の円筒埴輪輪烈を推測、円筒埴輪の特徴から下総型埴輪が用いられている。（長距離供給の例か）

古墳築城された6世紀後半代における地方支配の実体を考える上で重要な古墳とされている。

注 山倉1号墳の埴輪には埼玉県鴻巣市生出塚（下総）の窯で製作され、約80kmも水路運搬され供給されたことが確認されている。



二子塚古墳 (千葉県指定遺跡)

前方後円墳 5世紀中葉 姉崎 1762

長 106m 前方部 長さ 54m 巾 46m 高さ 9m、

後円部 径 52m 高さ 9.8m

古墳群の中では最も著名である

前方部と後円部双方に埋葬されていたらしい(木棺直葬か土壙によると推定される)

周濠があったと推測される(参道と古墳への橋跡周辺窪地)

推定復元されると巾 20m~40mの溝が廻り周溝を含めると全長 160mに達する盾型と思われ壮大な古墳となります 墳丘には円筒埴輪が二段にめぐっていた。

墳丘は標高約 3.5mの海岸砂丘に立地していてよく目立ち美しい形であったと思われる(応神陵に似た形態と言われる)

当墳 1.5km範囲に前方後円墳 1基、円墳 10数基があったが明治期鉄道工事のために破壊し消滅している。当墳はむぐら堰(青葉台)を掘り上げに土で築造したと言う説あり丘陵地から平地に移った稲作農耕の大型化と思われる。

出土副葬品

石枕(区に指定重文)

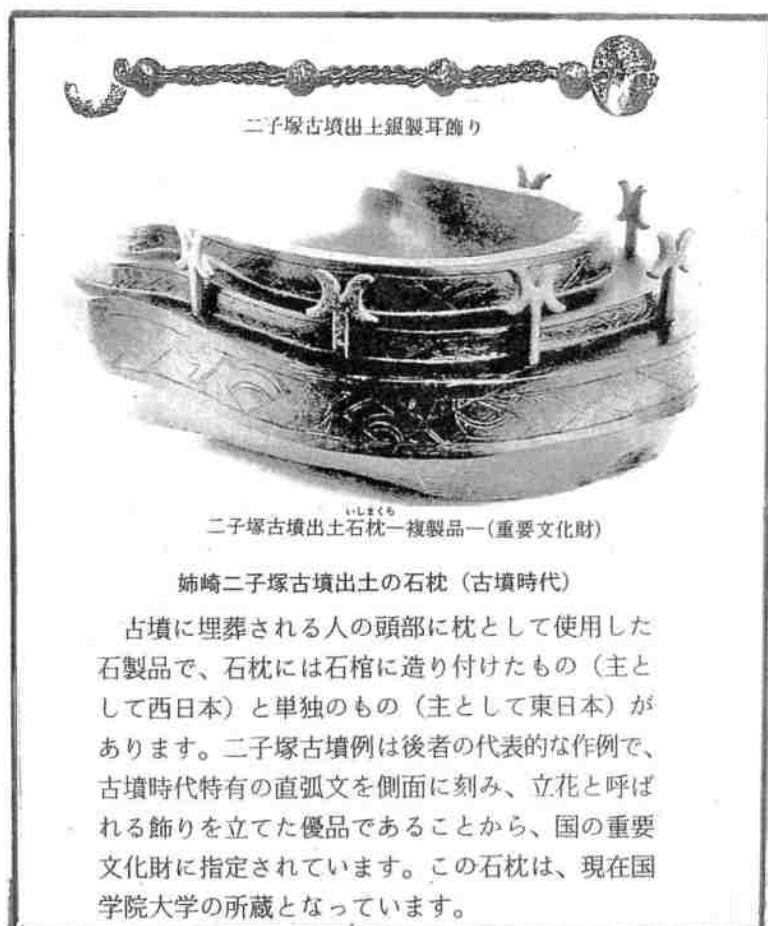
円筒埴輪、銀製腰佩

武具、武器、鏡

耳飾り、玉 等他

優れた数多くの副葬品は朝鮮半島を経てきた大陸製と思われる。

(石枕は後円部から出土)



○二子塚古墳の名称は地名の二タ子に由来する

墳丘を側面から望むとあたかも獅子が伏せているように見え里人は獅子塚とも称している。

この塚の周囲を駆足で七囲すると塚の中から剣劇の響きが聞こえてくると言う言い伝えがある

○埋葬者は

初代上海上国造忍立化多比命の墳墓ではないかとの説がある

| | |
|---|---|
| <p>いちばら発掘ものがたり</p> | <p>先人と向き合う場所 —姉崎二子塚古墳—</p> |
| <p>姉崎に二子塚古墳という千五百年程前のお墓があります。現在は草が繁り、周囲の住宅化も進んで、全長百メートル超す墳丘もあえて探さなければ見過ごす程その威容を潜めています。</p> <p>古墳は大きなお墓というだけではありません。一説には別の働きがあったとされ、それを示す資料が二子塚からは出土していません。</p> <p>戦時中、松根油採取のために墳丘を掘ったところ、石の枕が幾つかの副葬品と共に見つかりました。これは石枕と呼ばれ、死者のために作られ、埋葬されたも</p> | <p>姉崎に二子塚古墳という千五百年程前のお墓があります。現在は草が繁り、周囲の住宅化も進んで、全長百メートル超す墳丘もあえて探さなければ見過ごす程その威容を潜めています。</p> <p>古墳は大きなお墓というだけではありません。一説には別の働きがあったとされ、それを示す資料が二子塚からは出土していません。</p> <p>戦時中、松根油採取のために墳丘を掘ったところ、石の枕が幾つかの副葬品と共に見つかりました。これは石枕と呼ばれ、死者のために作られ、埋葬されたも</p> |
| <p>さらにこの期間をモガリという儀式として捉えられた。モガリとは埋葬するまで遺体を喪屋などの施設に安置して、被葬者の持つべき地位や権威を引き継ぐ儀式です。つまり、古墳とは儀式の内容を周囲に示す場所でもあったわけです。</p> | <p>ある研究者が、千葉市東寺山石神二号墳から出土した石枕には、鼠による傷が残されていることに着目しました。それは石枕がすぐには埋葬されず、一定期間地上に置かれたことを示すと考えたのです。</p> |

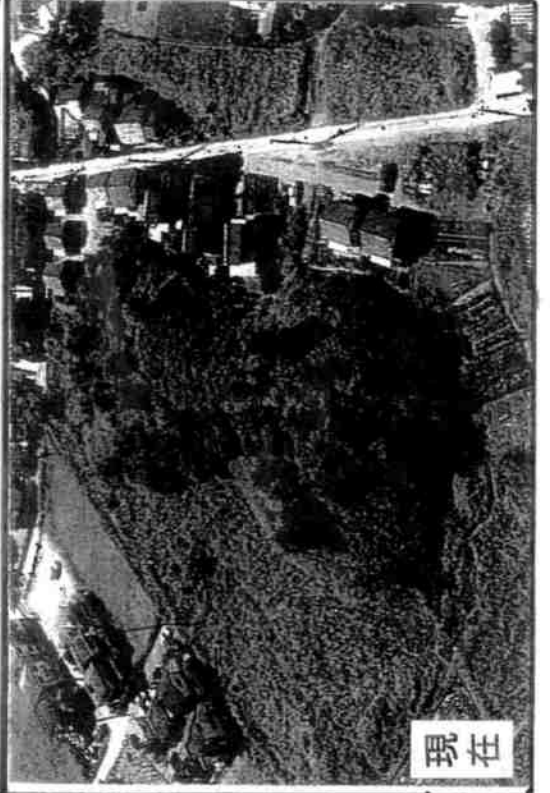
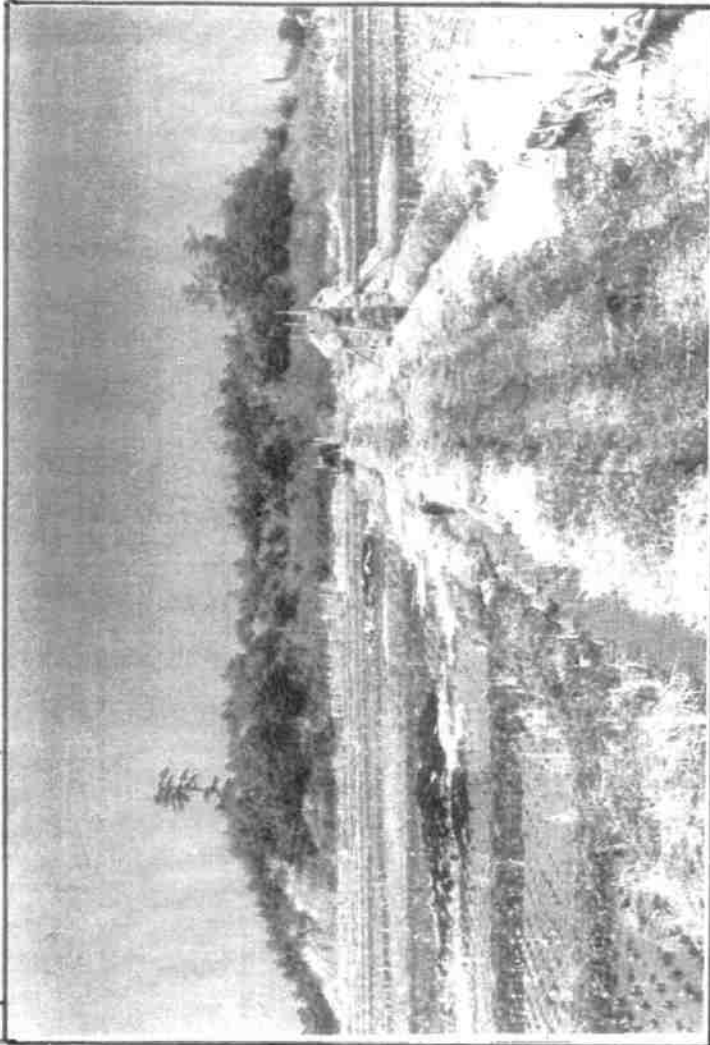
初代上海上国造(忍立化多比命)

忍立化多比命(上海上国造)は天穗日命を祖とする天照大神の子孫であると古事紀上巻に記載されている。国造本紀によれば13代成務天皇の御代上海上国造として任命された。

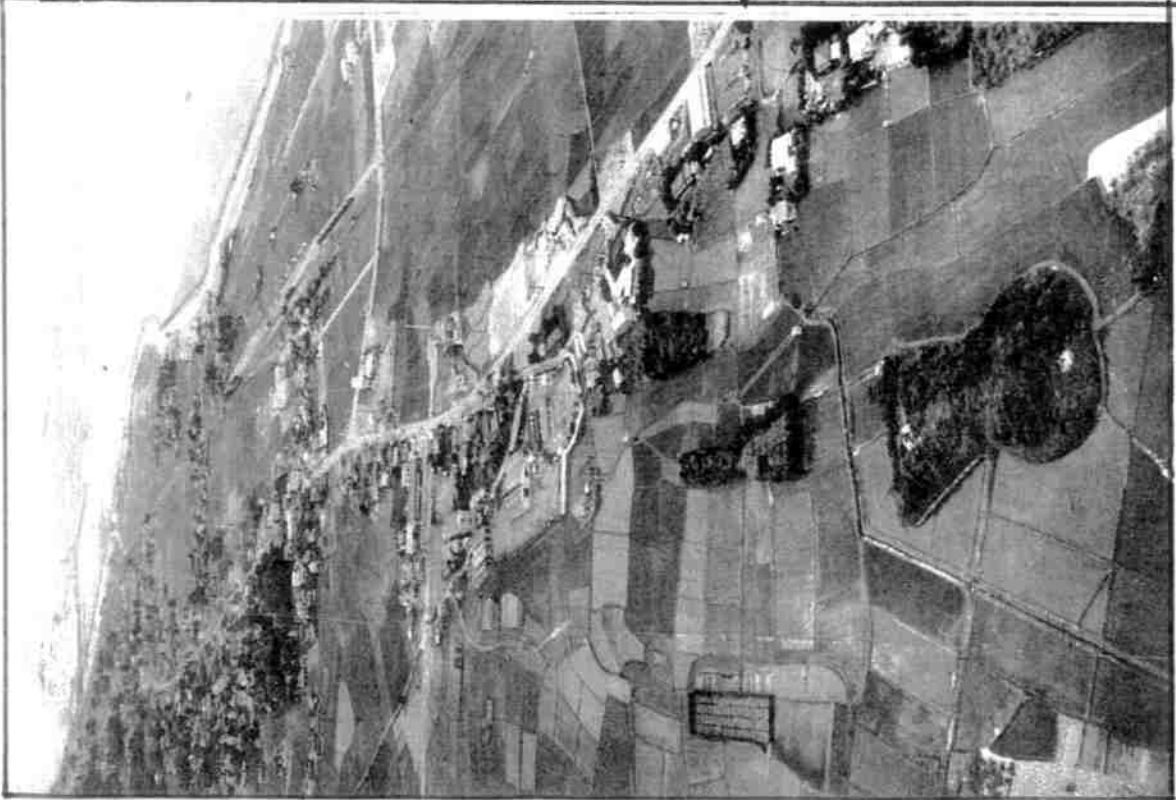
市原市神門4号墳の発掘成果をもとに葬儀の様子を復元したものです。

1. 「ムラ」「ムラ」から土器を持ち寄る
2. 仮設の建物の中で「祭祀」を行う
3. 「祭祀」に使った仮設の建物を焼きはらう
4. 「大柱」を建て、盛土して墳丘を築く
5. 棺を納めた後、玉を破碎して撒く
6. 墓坑を埋め戻して、献げ物を行う

姉崎二子塚古墳



現在



1961(昭和36年)

山王山古墳

発掘調査後消滅（昭和 38 年）

前方後円墳 6 世紀前葉

全長 70m 前方部巾 45m 高さ 7.5m、後円部径 34m 高さ 8m

埋葬は墳直下 2.6m の粘土槨長さ 9m 巾 3.5m に組合せ式木棺が収納されていたと推定される。（木棺は長さ 7m 巾 1.5m 深さ 30cm 棺底巾 95cm）

古墳から素晴らしい遺物が出土、中でも金色に輝く天冠を頭につけたまま葬られた死者の右脇に添えられていた。

金銀に包まれた華麗な飾り大刀と合わせて 45 本以上の矢を納めた金銅胡禄がこの古墳の被葬者の武人的性格を象徴するものとされています。

特に横向きの竜の頭部をあしらった金銅製環頭を柄の先につけ鞘は文様を打出した銀の薄板で包んだ銀装環頭大刀は保存状態が良いこともそ相まって、この種の飾り大刀の中でも一級品で際立った存在です。

出土遺品

銀銅製、環頭大刀、胡籛、鉄鏃、銅製冠、製耳環、櫛、小鏡、刀子、鉄刀外部施設として墳頂部 及 墳丘中段に埴輪列が確認され、人物 埴輪破片 動物埴輪片が発見されている。

④ 昔、墳丘上に山王権現が祀られていたところから山王山といわれた。

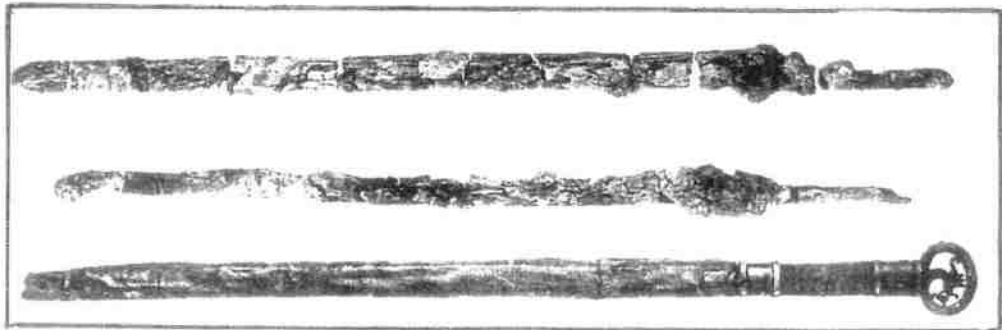
姉崎に言い伝えられている昔話「おさん狐と城山狐」の始まりは、この山王権現の祭りが舞台と言われています。（資料は椎津城跡編に記載）

④ 墳丘は昭和 38 年 発掘調査後に消滅した

南側面は現在 支所・姉崎公民館・保育所が建っている。



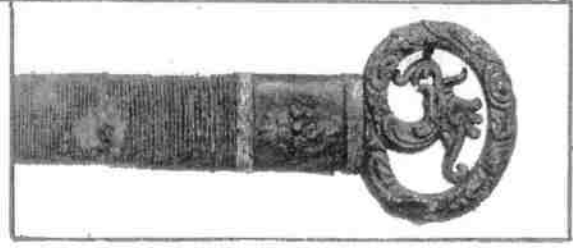
発掘前の山王山古墳全景(昭和36年) 現 姉崎公民館



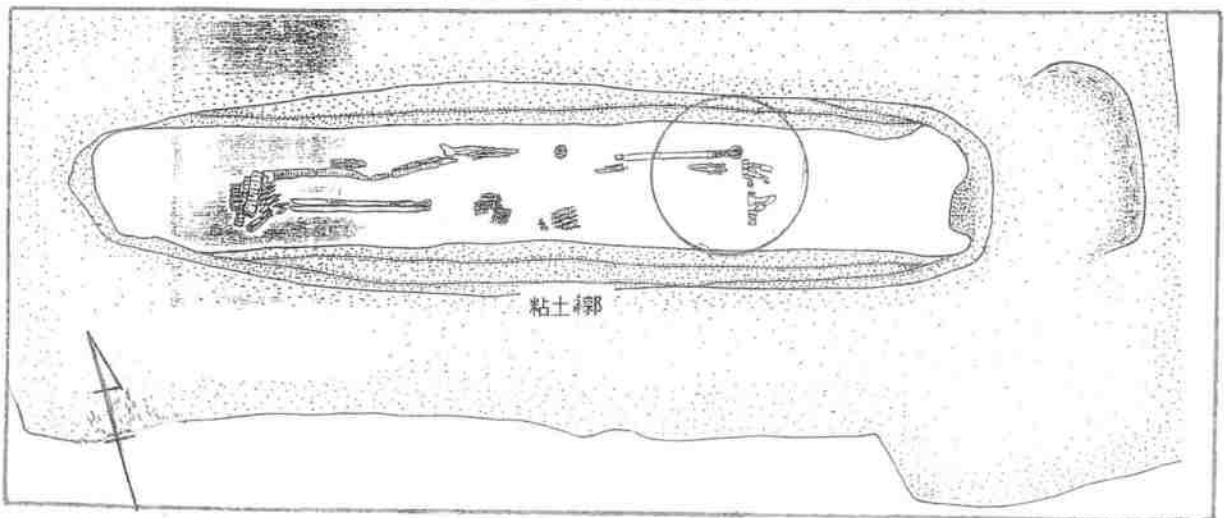
木装太刀

環頭太刀

山王山古墳出土幅葬品



部分 柄頭



姉崎神社境内古墳

○御社古墳 円墳径 21m 高さ 2.5m

未調査 保存状態 良好

別名 宮山古墳 頂部に大山祇神社を祀る

墳丘上の数本の楠がたっている

○御社2号墳 円墳径 18m 高さ 1.5m

未調査 別名：白浪古墳

高さが低平な形状から古墳時代初期の築造と推定される

近世以降 各所を削り取られ旧状をとどめない

(神輿庫・展望台 造営のため削平 隣接の富士塚築造の際の用土削り取り)

頂部に日本武尊 白波御上覧記念碑、金毘羅大権現石碑、展望台跡等がある

○御社3号墳 円墳径 10.5m 高さ 3m

未調査 別名：富士塚

近世 古墳をそのままに上に盛土をして富士講による富士塚を築いている。

盛土の用土は隣接の2号墳を削り用いたと推定される。

頂部に浅間神社を祀る。

注：宮山台地 姉崎神社焼失の後 発掘調査の際、弥生時代後期及び古墳時代後期の住居跡が9軒検出され、当時この地に集落があったと推定される。

六孫王原古墳 7世紀後期 全長 45.4m

前方後方墳 前方部 巾 25m 高さ 1.6m、
後方部 巾 27m 高さ 2.8m

周溝（長方形）巾 7.4m 深さ 1m強 軸長 53.1m

出土遺物 金銅製馬具片 鉄製刀

埋葬施設は後方部、切石積 横穴式石室（^{げんしつ}玄室）

後方部南側面、開口（^{せんどう}羨道入口）

墳丘南側部分の大幅な削平

施設本体の破壊によって規模は不明確

姉崎古墳群、唯一前方後円墳と言う墳丘で、歴史上重要な遺跡である。

姉崎古墳群中 最後期の首長墓とされている。

近くに六孫王原遺跡

弥生時代後期から

古墳時代にかけての集落跡
があり隣接の毛尻遺跡を含
め 102 軒の竪穴住居跡を検
出している。上海上国造の
本拠地とも考えられてい
る。



○原 1 号墳 6 世紀前葉 全長 70m 発掘調査後消滅

前方後円墳 前方部 巾 32m 高さ 6m、後円部径 36m 高さ 5.7m

木棺直葬 円筒埴輪列 周溝巾 8mがめぐる

墳丘の規模 前方部の発達の度合 埴輪型式等 山王山古墳と類似する
事から実年代も接近していることを思わせる

出土副葬品 鉄刀 刀子 鉄鏃

○堰頭古墳 (別称 小谷古墳) 未調査 青葉台4丁目
前方後円墳 全長 45.4m 保存状態良好
前方部 巾 22m 高さ 3.15m、後円部 径 25m 高さ 3.5m

○椎津外郭古墳 未調査 椎津城跡内
前方後円墳 全長 80m 円筒埴輪出土
31mの高台に築いた古墳上に椎津城主郭が造られ墳丘は改変されている

○椎津稻荷山古墳 未調査 茶の木遺跡内
円墳の全長 22m (41mを推定される)
周溝の一部推定 須恵器 大甕を出土

注：茶之木遺跡 古墳時代～平安期の住居跡 157軒検出 大規模集落跡と見られる



○富士見塚古墳

円墳 径 25m 高さ 3.5m

木棺直葬と推定

平右衛門作、支墳群の主墳墓と
考えられる。

優れた出土遺品が山王山古墳と
の類似点から埋葬者は山王山古
墳の首長の統率下にある上位の
人物ではないかと推測される
埴輪の樹立はなかったと推定さ
れる。

富士見塚古墳遺物出土状況

副葬品としては、下記のも
のが検出された。棺床と思わ
れる部分の南縁からは長軸線
に沿い鋒先を西に向けて直
刀一が、鉄鏃二〇本を束状
に収納した鉄地金銅装の胡
録一が出土した。さらに北
縁からは、鏡面を上に向け
た白銅製小形仿製鏡一が、
鹿角装刀子一を下にして
出土した。その他、鉄斧一、
刀子残欠一、鉄鏃二が検出
されたが、この鉄鏃二は出
土状態からみて、前記の胡
録から移動したものであ
らう。副葬品のうち胡録は
上下二段の帯金具があり、
上段の帯金具には二箇の吊
金具が着装されていて、
帯金具・吊金具の裏面には
それぞれ麻布片の付着が認
められた。当該地域におけ
る胡録の出土は、近接する
山王山から同種の出土例が
みられ興味深いものがある。

○徳部台古墳 調査前消滅（青葉台4丁目）

二重周溝裾部に疑灰砂岩積 両袖式横穴石室

未調査のため 規模不詳 姉崎古墳群中 唯一の方墳

○木戸窪古墳 調査前消滅（青葉台4丁目）

墳頂に粘土槨2基、直刀片、銅環、小玉、人骨（歯）片を出土

円墳 未調査のため規模不詳

注：原1号、2号墳、六孫王原墳から最後に徳部台方形墳をもって 首長墓の系譜は終わったと推定される。

○姉崎妙経寺遺跡・古墳

○5号墳 6世紀初期 円墳
内径17m 周溝巾5m

5世紀前半頃から7世紀頃迄約200年以上の間古墳が造られていた。現在11基が発見されている縄文中期の大規模貝塚、竪穴住居跡、古墳初期の竪穴、住居4軒を発見。海岸砂地には人々が住む場所として適しないと予想されていたが、より古くから人々が住むに十分。適していたとわかった。



姉崎妙経寺遺跡(5号墳)



姉崎妙経寺遺跡全体図

○今富塚古墳

4世紀前半（古墳時代前期）

前方後円墳 全長 120m 前方部 巾 31m 高さ 7m 長さ 40m

後円部径 72m 高さ 12m（高低差 5m）

くびれ部 巾 24m 高さ 6m

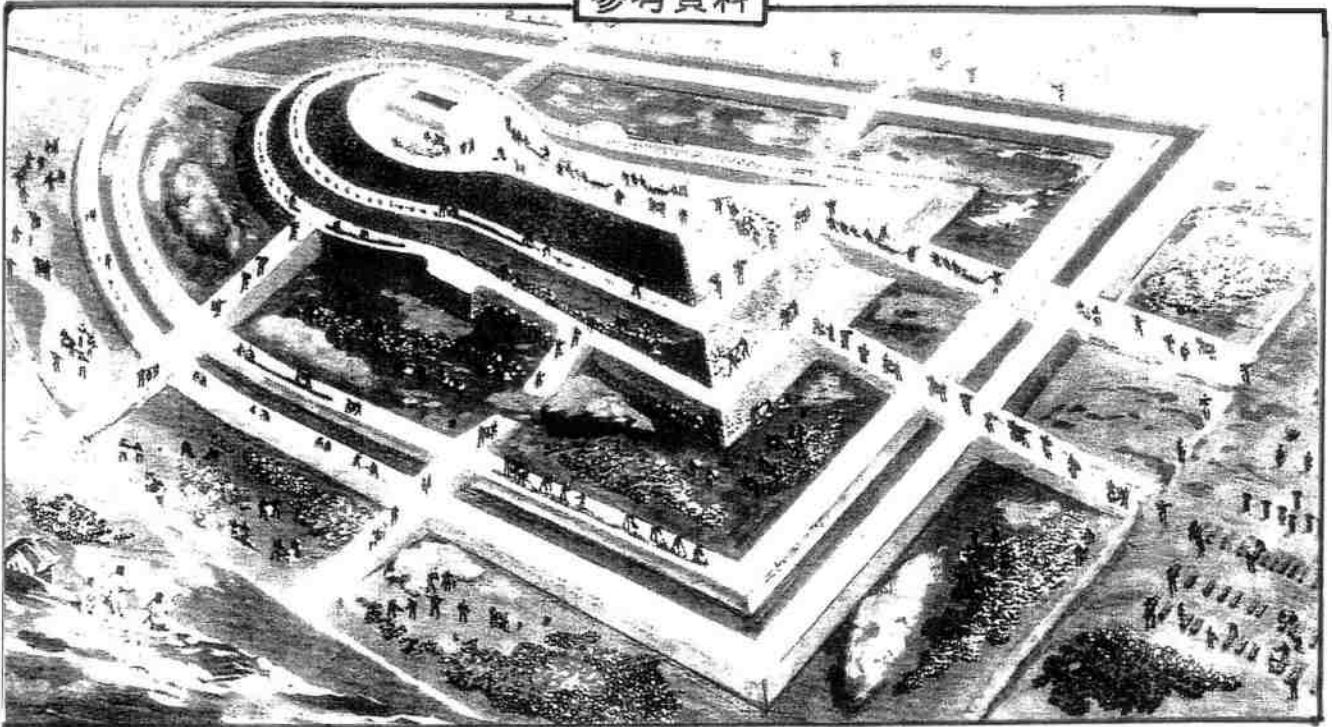
平成3年初めて確認調査が行われ本格的な大型前方後円墳であることが判明した。埋葬施設の木炭槨を確認した（下記参考写真）墳丘は前方半分が寺の施設で削られ後円部は臨海部造成埋立の用土として大きく崩されている。又 くびれ部に道路に造られ墳丘の大半が破壊されている。かろうじて前方部が細長く低い古式の前前方後円墳と伺える。築造は姉崎古墳群の中では最初の頃に造られた首長墓と思われる。周溝はわずかに痕跡から巾 7.5mと推定される。



注：この古墳の南西 700mの台地には小さな古墳が点在している。

又北東 500mの所には今富廃寺がある。

参考資料



古墳築造の想定図 大阪府の古墳時代中期の前方後円墳の発掘調査によって得られた資料をもとにして、大古墳築造の想定図が作成された。仁徳陵の築造には、1日1000人動員したとしても4年間かかるという。大阪市立博物館蔵。



仁徳天皇陵 大阪府堺市

5世紀前 全長475mの前方後円墳

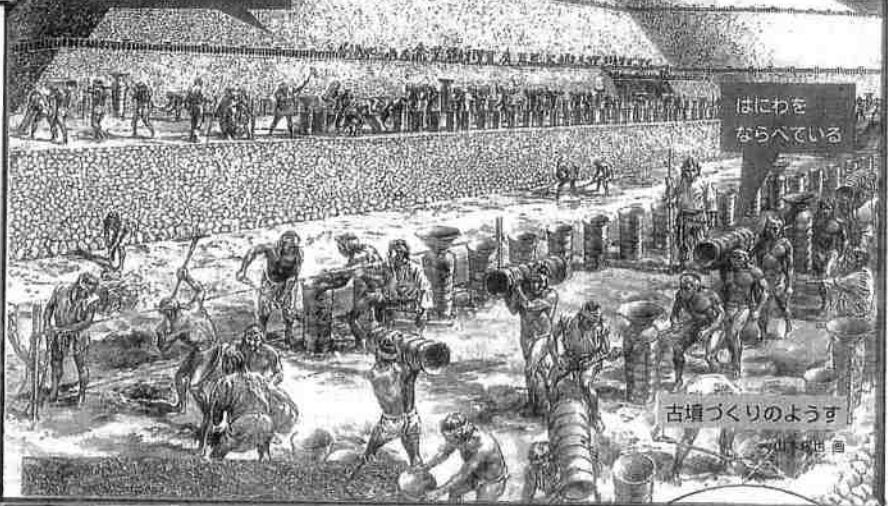
世界最大規模の墳墓

こぶん
力をつけた豪族たちによって、小山のような大きな墓（古墳）がつけられた。古墳のつけられた時代、大和の大王によって国の統一が進み、大陸から技術や文化が伝わった。

石を組みあげ、古墳の形をととのえる

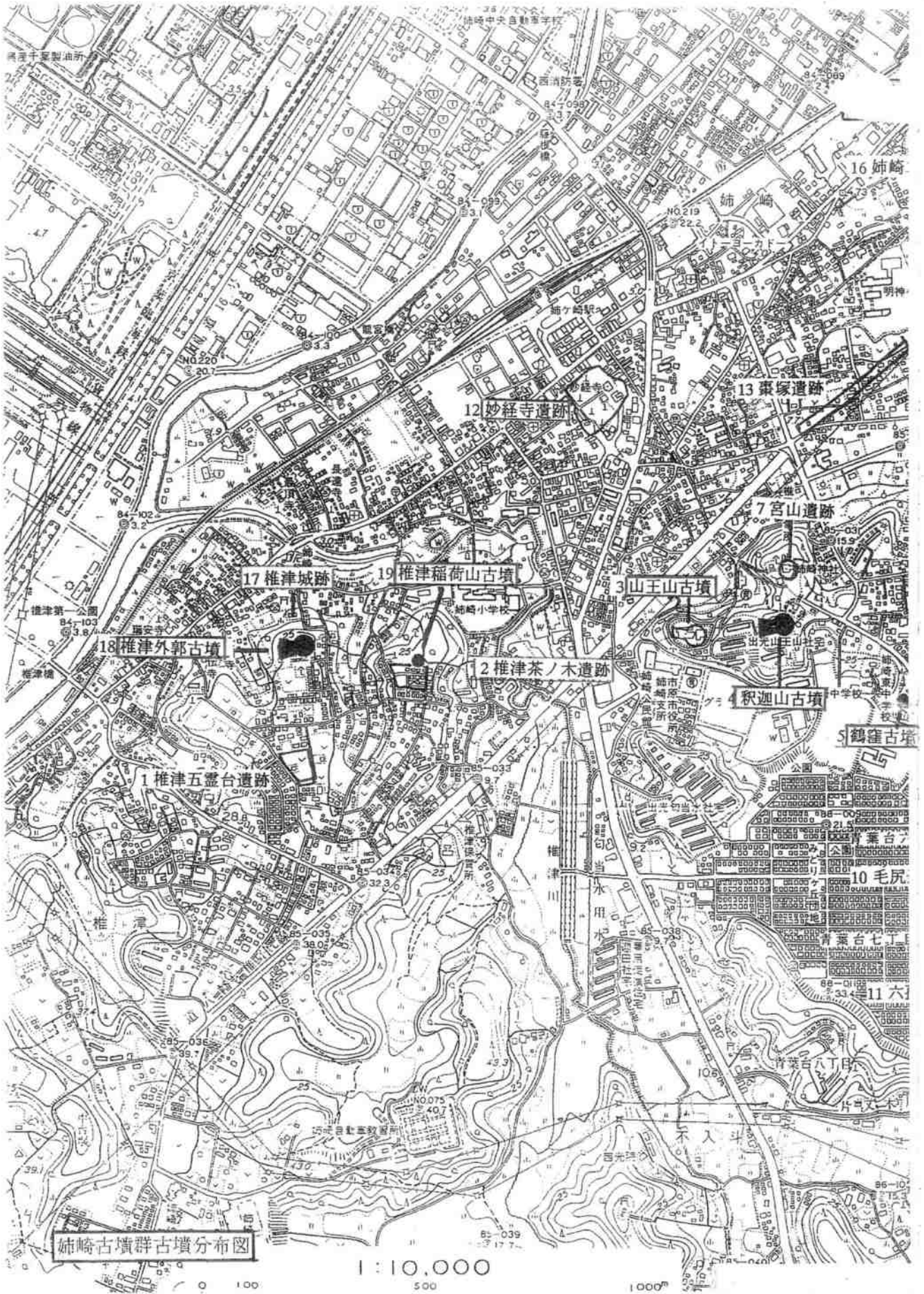


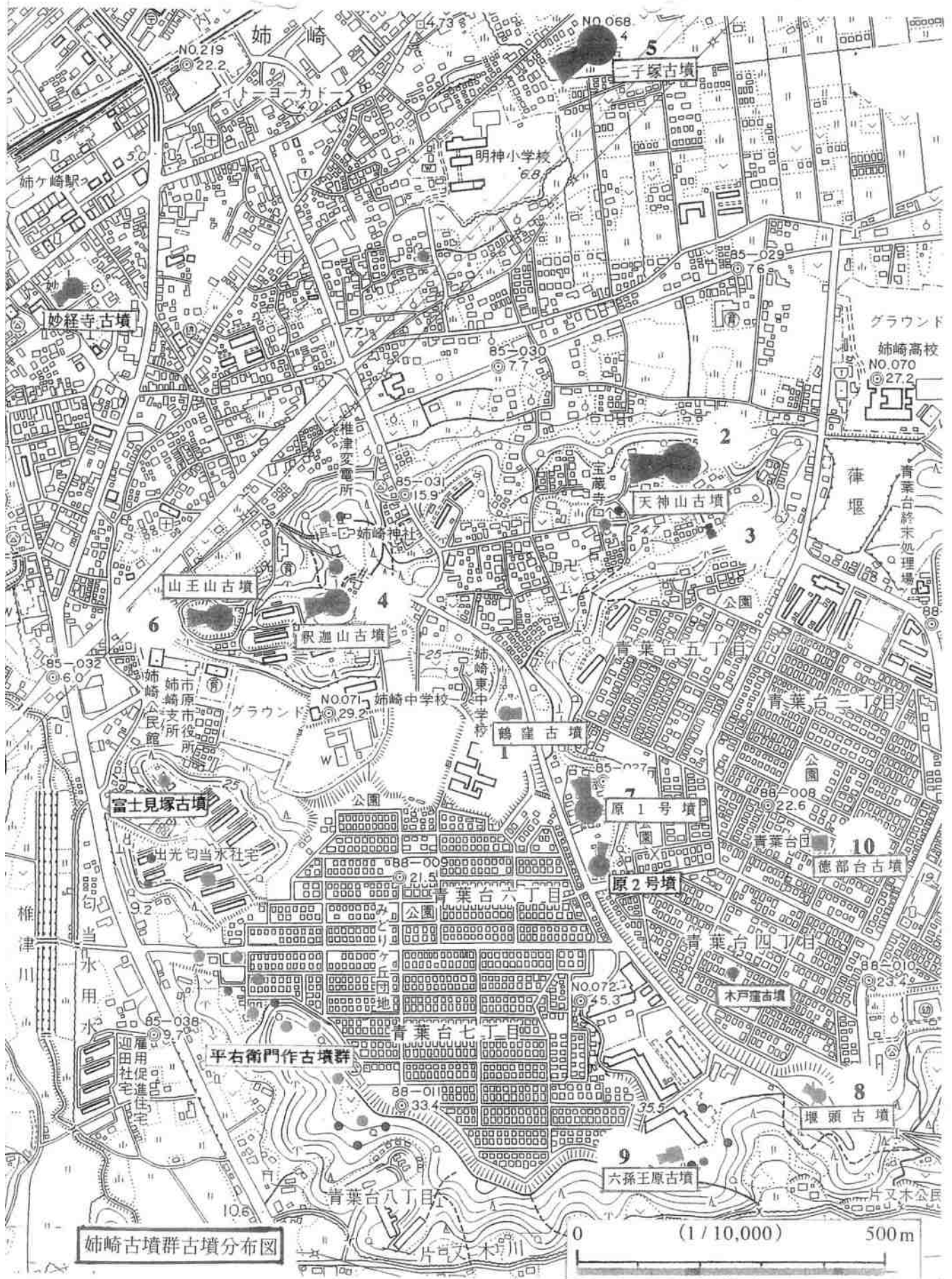
仁徳天皇、民のかまどの煙を望み、たまう



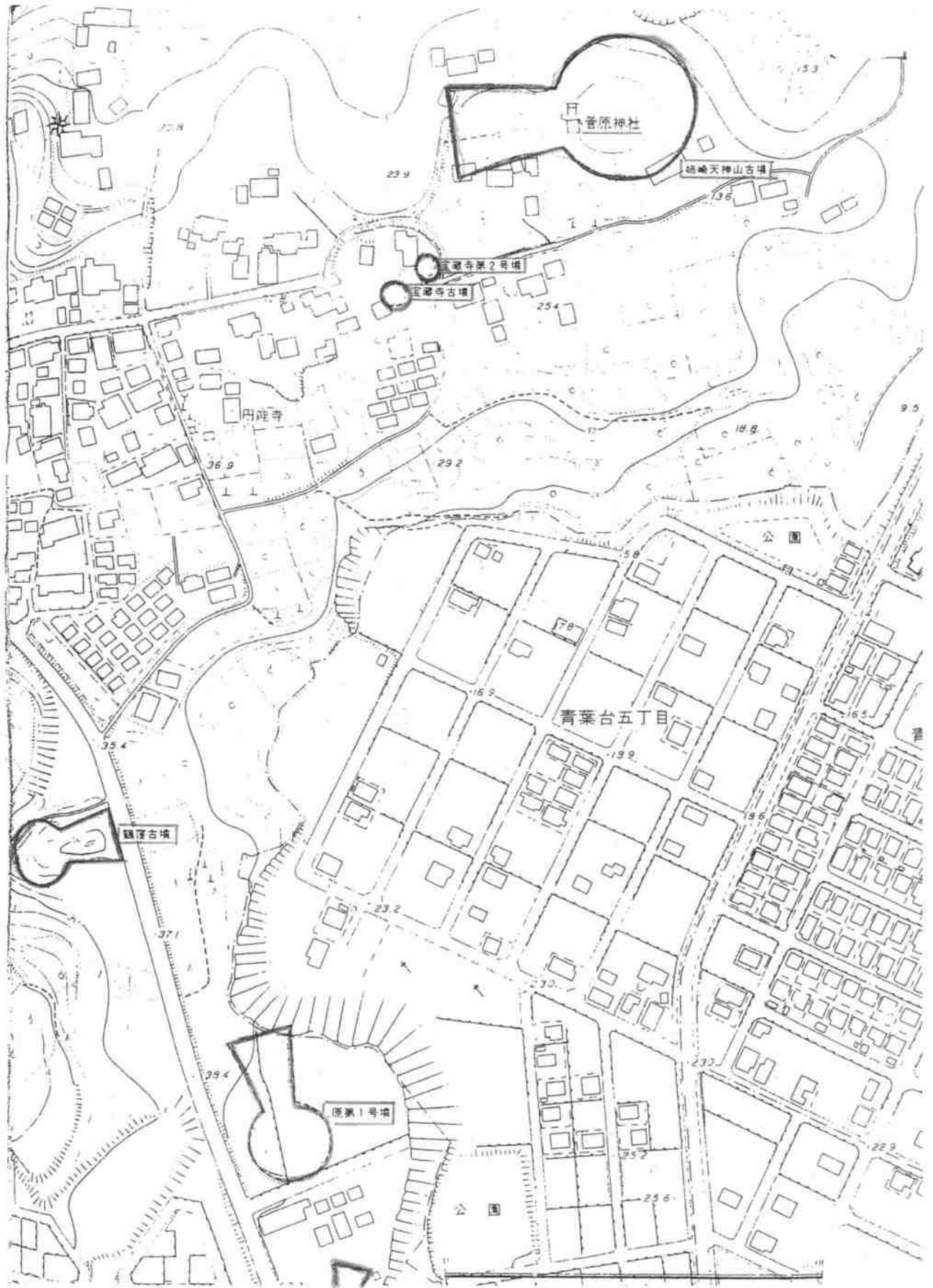
はにわをならべている

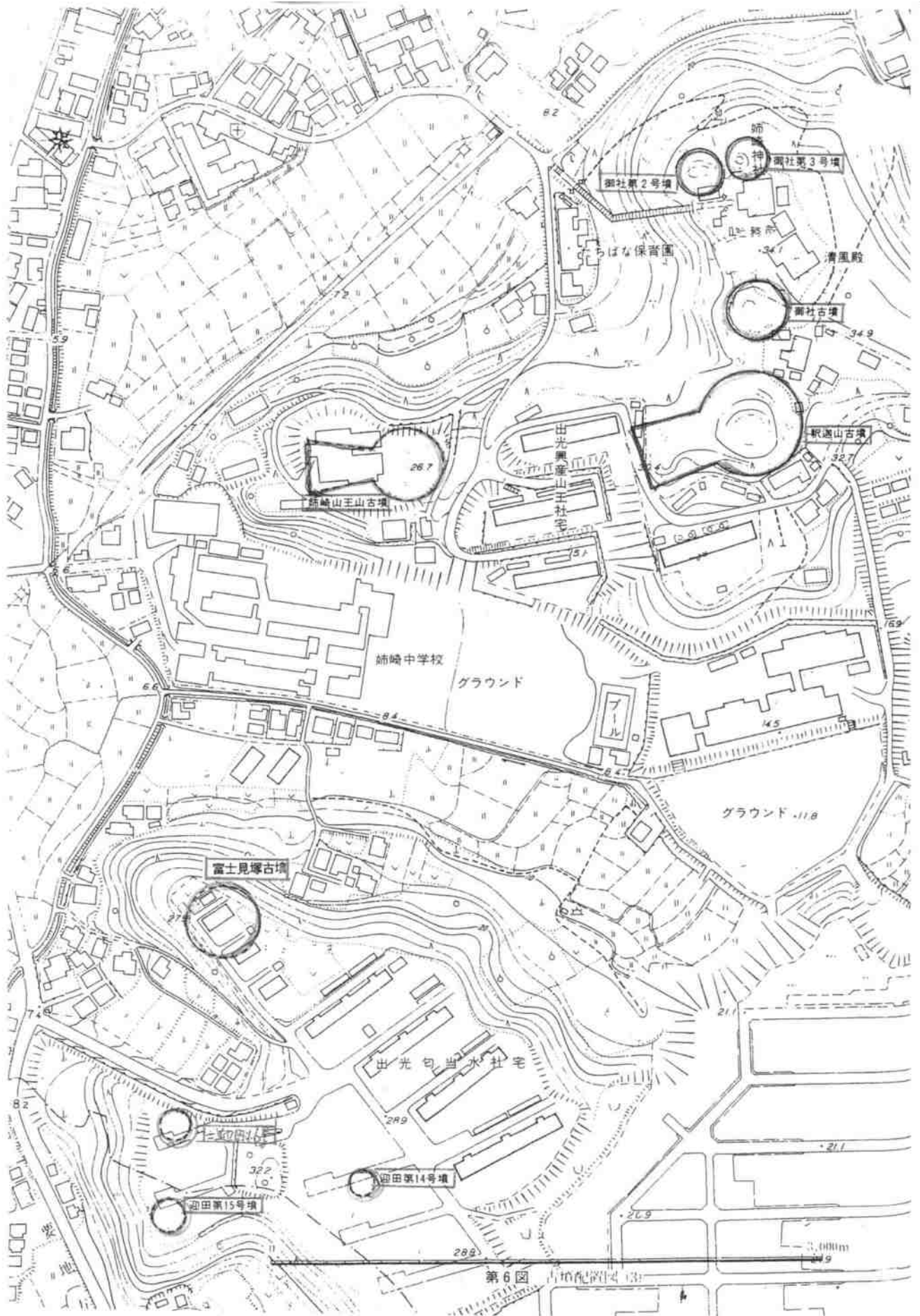
古墳づくりのようす

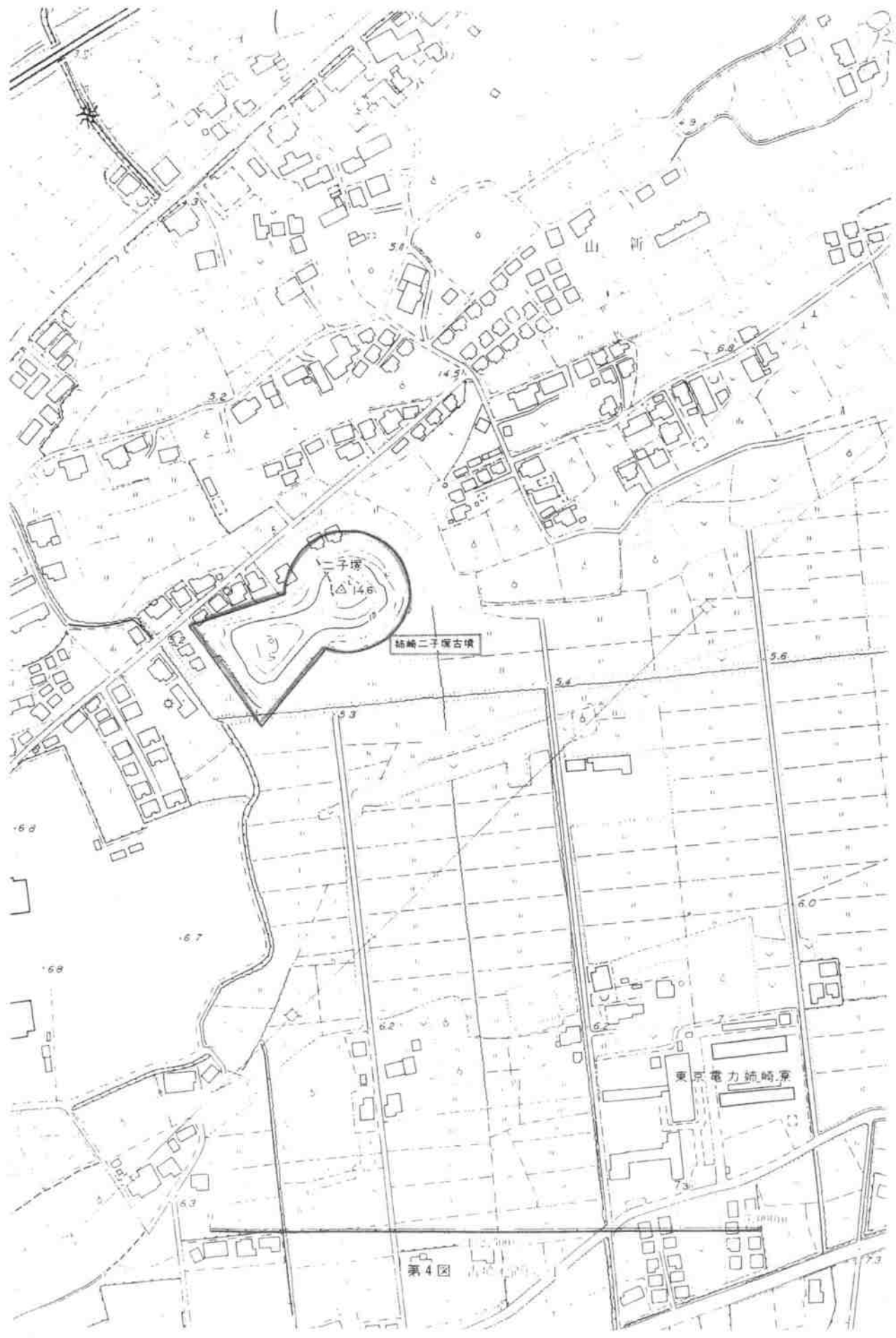


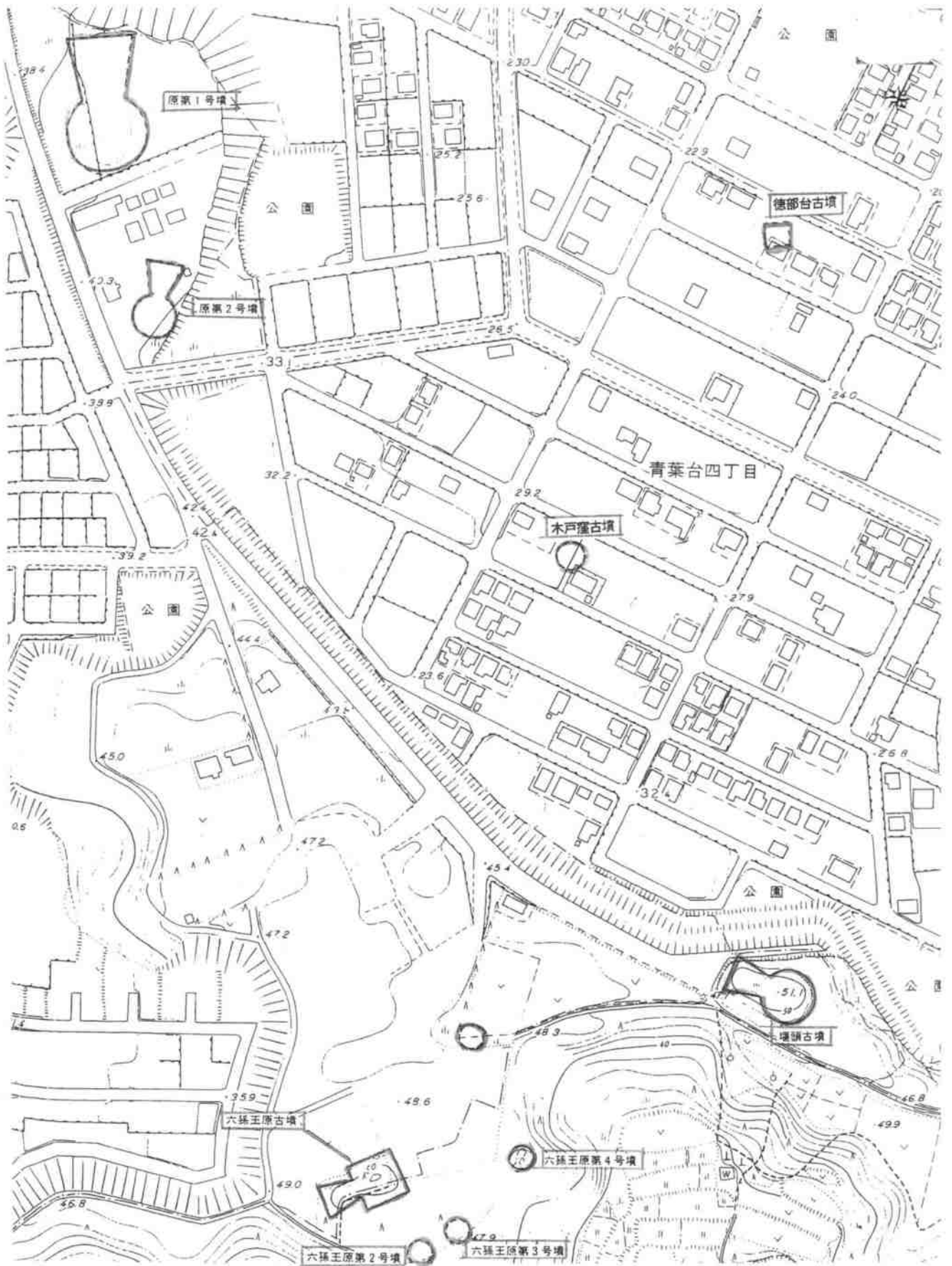


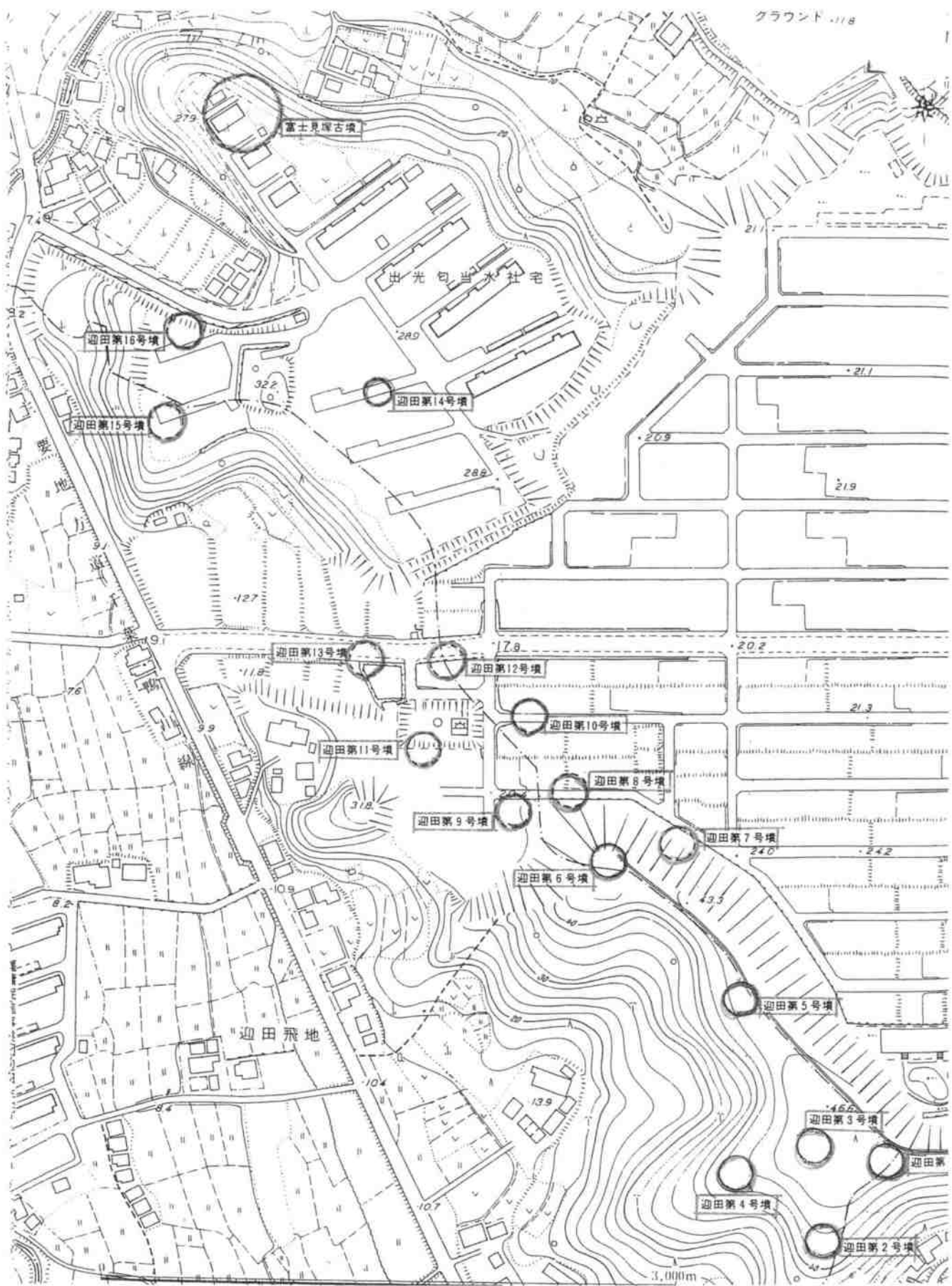
姉崎古墳群古墳分布図













今富遺跡群立野前地点周辺地形図